緑と暮らす
【第７回】

都市の緑３表彰 第44回「緑の都市賞」第一生命財団賞

化女沼2000本桜の会

宮城県大崎市

化女沼ダム湖畔の桜
東北の桜は開花が遅い。訪問した４月上旬、多くの桜は、まだ五分咲きくらいだった。

宮城県の穀倉地帯・大崎市。中心地の住宅街を囲むように水田地帯が広がる。その平野の北端の丘陵地に化女沼（けじょぬま）ダム湖がある。化女沼は、丘陵地帯の湧水で生まれた自然湖だったが、農業用水の安定確保などを目的に、１９９６年にダムが完成し、周辺には公園を整備した。

この化女沼ダム湖畔とその周辺を拠点に活動する団体「化女沼２０００本桜の会」が、２０２４年10月、公益財団法人都市緑化機構主催の「緑の都市賞」（特別協賛・一般財団法人第一生命財団）の第一生命財団賞を受賞した。

同会は、西暦２０００年を記念して、「未来の子どもたちに桜の名所を残したい」と発足し、桜の植樹や維持管理、清掃活動などを続け、今年で25年目を迎えている。５万坪を超える敷地にこれまでに市民の手で３０００本以上の桜を植えてきた。桜の花を長い期間楽しめるように、開花時期が異なるさまざまな品種の桜を植えているのが特徴だ。今では、県内外から多くの人が訪れる桜の名所となっている。

また、２０１１年の東日本大震災後には、「化女沼の桜で未来の子供たちに夢と希望を!!」の理念のもと［心の復興３ヶ年計画］を企画し、地域の小学生や園児たちと共に３年にわたって桜の植樹を行い、震災による犠牲者の追悼も行った。その後も、犠牲者を悼み、３月11日に桜を植える活動を続けている。

ヨウコウザクラ（陽光桜） 2016年、大崎市誕生10周年を記念し、「桜」を大崎市の木として制定。翌年、その制定を祝って、ヨウコウザクラ20本を化女沼ダム湖畔に植えた。ピンク色の花が咲くのが特徴の早咲きの桜。

桜につけられた名札 桜の木一つひとつに植樹に参加した人の名前をつけることで、植えた桜に愛着を持ってもらう工夫だ。毎年満開の時期に植えた桜を見に来る人もいるそうだ。

桜の植樹をする市民たち 希望者を募り、下草刈り、ツタの除去、追肥などの環境整備活動や、ゴミ拾い、不法投棄物の撤去などの清掃活動、植樹活動などを行っている。写真は、桜の若木を植えているところ。

清掃活動を行うボランティア　会員と共に、多くの市民やボランティア、企業、団体が参加し、桜を観賞しながら、化女沼ダム湖周辺の駐車場、周遊道路、桜の植栽地のゴミ拾いを行っている。

活動後に桜を愛でながら昼食　お昼ご飯は、活動に参加した会員たちが、和やかに交流する機会になっている。

桜を植える子どもたち　2011 年に起きた東日本大震災後、「化女沼の桜で未来の子供たちに夢と希望を !!」との思いから、［心の復興 3 ヶ年計画］を企画。2012 年から 3 年に渡って、地域の小学生や園児たちと共に犠牲者の冥福を祈り、桜を植えた（2012 年「鎮魂の桜」60 本、2013 年「希望の桜」100 本、2014 年「夢の桜」50 本）。植樹から 10 年以上が経った今では、お花見が楽しめるほどに生長した。

化女沼ダム湖　丘陵地帯の湧水で生まれた自然湖で、周囲が約 4 ㎞ある。その名前は、美しい娘が沼の水を鏡にして化粧をしたという「化粧沼伝説」や、ある娘が蛇を産み沼に身を投げ、そこから機織りの音が聞こえるという「照夜姫（てるやひめ）伝説」に由来し、そこから化女沼と言われるようになったという。